



コンピュータ セットアップ (F10)  
ユーティリティ ガイド  
Compaq D315 MT

製品番号 : 287934-292

2002年7月

このガイドでは、コンピュータ セットアップの使用方法について説明します。このツールは、新しいハードウェアを取り付けたときにコンピュータのデフォルト設定を再構成および変更する場合や、メンテナンスの目的で使用します。

© 2002 Compaq Information Technologies Group, L.P.

© 2002 コンパックコンピュータ株式会社

CompaqおよびCompaq ロゴは、Compaq Information Technologies Group, L.P.の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、およびWindows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、本書に掲載されている会社名、製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、また本書の適用の結果生じた間接損害を含めいかなる損害についても、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、現状有姿のまま提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。コンパック製品に対する保証は、当該製品に付属の限定的保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。



**警告：**その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがあるという警告事項を表します。

---



**注意：**その指示に従わないと、装置の損傷やデータの損失を引き起こす恐れがあるという注意事項を表します。

---

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ ガイド

Compaq D315 MT

初版 2002年7月

製品番号：287934-292

コンパックコンピュータ株式会社

---

# 目次

## コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ ガイド

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ	1
コンピュータ セットアップ ユーティリティの起動	3
ファイル (File)	4
システム情報 (System Information)	4
バージョン情報 (About)	4
日付と時刻 (Set Time and Date)	4
ディスクケットに保存 (Save to Diskette)	4
システム構成の復元 (Restore from Diskette)	4
デフォルト値に設定して終了 (Set Defaults and Exit)	4
変更を保存しないで終了 (Ignore Changes and Exit)	4
変更を保存して終了 (Save Changes and Exit)	4
ストレージ (Storage)	5
デバイス構成 (Device Configuration)	6
オプション (Storage Options)	7
IDE DPS セルフテスト (IDE DPS Self-Test)	8
起動順序 (Boot Order)	8
セキュリティ (Security)	9
セットアップ パスワード (Setup Password)	9
電源投入時パスワード (Power-On Password)	9
パスワード オプション (Password Options)	9
デバイス セキュリティ (Device Security)	9
ネットワーク サービス ブート (Network Service Boot)	9
システム ID (System IDs)	10
マスタ ブート レコード セキュリティ (Master Boot Record Security)	10
カスタム * (Advanced)	11
電源投入時オプション (Power-On Options)	11
オンボード デバイス (Onboard Devices)	13
PCI デバイス (PCI Devices)	13
バス オプション (Bus Options)	14
デバイス オプション (Device Options)	14

---

# コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ ガイド

## コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ

次のような場合は、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを実行してください。

- コンピュータの工場出荷時の設定を変更する場合。
- コンピュータ (リアルタイム クロック) に日付 (Date) と時刻 (Time) を設定する場合。
- プロセッサ、グラフィックス (ビデオ)、メモリ、オーディオ、記憶装置、通信ポート、入力装置などの情報を参照したり、設定を変更したりする場合。
- 起動可能 (ブータブル) ドライブの起動順序 (Boot Order) の設定を変更する場合。起動可能ドライブとして、ハードディスク ドライブ、ディスクレット ドライブ、オプティカル ドライブ、LS-120ドライブなどがあります。
- 低騒音ドライブ (Quiet Drive) を設定する場合 (この機能をサポートするドライブを使用している場合)。
- クイック ブート (QuickBoot) とフルブート (FullBoot) の設定を変更する場合。クイック ブートでは、自己診断テストが省略されるので、コンピュータをすばやく起動することができます。以下のように設定することができます。
  - 常にクイック ブート (デフォルト)
  - フルブートを実行する間隔 (毎日~30日まで指定可)
  - 常にフルブート

- ネットワーク サーバ モード (Network Server Mode) を設定する場合。ネットワーク サーバ モードでは、キーボードやマウスが接続されていても、接続されていなくても、電源投入時パスワード (Power-On Password) が有効である時にコンピュータのオペレーティング システムが起動されます。電源投入時パスワードを入力するまでは、システムに接続されているキーボードやマウスはロックされたままです。
- POST (Power-On Self Test) メッセージ (POST Message) の無効 (Disable) / 有効 (Enable) の設定を変更する場合。非表示モードでは、メモリ カウント、製品名、エラーでないテキスト メッセージなどは表示されません。POSTエラーが発生した場合には、無効/有効の設定に関係なくエラーメッセージが表示されます。POST実行中に非表示モードから表示モードに切り替えるには、[F1]~[F12]キー以外のキーを押してください。
- オーナーシップ タグ (Ownership Tag) を設定する場合。オーナーシップ タグを設定しておく、コンピュータの起動時にコンピュータの所有者に関する情報が画面上に表示されます。
- 会社によって割り当てられたアセット タグ (Asset Tag) または資産ID番号を設定する場合。
- 電源投入時パスワード (Power-On Password) を設定する場合。また、コンピュータの再起動時 (ウォーム ブート時) にも電源投入時パスワードの入力が必要なように設定を変更する場合。
- コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティにアクセスできるようにセットアップ パスワード (Setup Password) を設定する場合。設定方法は、この付録の中で説明します。
- シリアル ポート、USBポート、パラレルポート、オーディオ、内蔵NICなどの内蔵I/O機能の使用禁止/許可を設定する場合。
- マスタ ブート レコード (MBR) セキュリティ (Master Boot Record Security) を設定する場合。
- リムーバブル メディアからの起動 (Removable Media Boot) の禁止/許可を設定する場合。
- リムーバブル メディアへの書き込み (Removable Media Write) の禁止/許可を設定する場合 (ハードウェアでサポートされている場合)。
- Power-On Self-Test (POST) で検出されたが、自動修復できなかったコンフィギュレーション エラーを解決する場合。

- リプリケート セットアップ機能を利用する場合。コンピュータの設定情報をディスクに保存したり、その情報を使って複数のコンピュータを同じ設定にすることができます。
- 特定のIDEハードディスク ドライブのセルフテストを実行する場合（ドライブでサポートされている場合）。

## コンピュータ セットアップ ユーティリティの起動

コンピュータ セットアップ ユーティリティを起動するには、次の手順に従います。

1. コンピュータの電源を入れるか、再起動します。Windows をお使いの場合、[スタート]→[Windowsの終了]（または[終了オプション]）→[コンピュータを再起動する]（または[再起動する]）の順に選択します。
2. コンパックのロゴ画面の右下に [F10=Setup] と表示されたら、すぐに[F10]キーを押します。



画面右下に[F10=Setup]と表示されている間に[F10]キーを押せなかったときは、コンピュータを再起動して操作をやりなおしてください。

3. 使用言語をリストから選択し、[Enter]キーを押します。
4. [コンピュータ セットアップ ユーティリティ]のメイン画面から4つのメニュー（[ファイル]（File）、[ストレージ]（Storage）、[セキュリティ]（Security）、[カスタム]（Advanced））が選択できます。
5. 左右矢印キーでメニューを選択し、上下の矢印キーで項目を選んで[Enter]キーを押します。コンピュータ セットアップ ユーティリティのメニューに戻るには、[ESC]キーを押します。
6. 変更した設定を有効にするには、[ファイル]（File）→[変更を保存して終了]（Save Changes and Exit）の順に選択します。
  - 変更した設定を破棄したい場合は、[変更を保存しないで終了]（Ignore Changes and Exit）を選択します。
  - 工場出荷時の設定値にリセットする場合は、[ デフォルト値に設定して終了]（Set Defaults and Exit）を選択します。

コンピュータ セットアップ ユーティリティ

メニュー	項目	説明
ファイル (File)	システム情報 (System Information)	次の項目を表示します <ul style="list-style-type: none"> <li>• 製品名 (Product Name)</li> <li>• プロセッサ タイプ/速度/ステッピング (Processor Type/Speed/Stepping)</li> <li>• キャッシュ サイズ (Cache Size) (L1/L2)</li> <li>• メモリ サイズ (Memory Size)</li> <li>• システムROM (システム ファミリの名前とバージョン)</li> <li>• 本体シリアル番号 (Chassis Serial Number)</li> <li>• アセット タグ (Asset Tracking Number)</li> <li>• 内蔵の有効なNIC用の内蔵MAC (Integrated MAC) (必要に応じて)</li> </ul>
	バージョン情報 (About)	著作権情報を表示します
	日付と時刻 (Set Time and Date)	システムの時刻と日付の設定
	ディスクットに保存 (Save to Diskette)	フォーマットされた1.44MBディスクットのCPQsetup.txt ファイルに、CMOSを含めたコンピュータの設定情報を 保存します
	システム構成の復元 (Restore from Diskette)	ディスクットに保存されているシステム構成を復元し ます
	デフォルト値に設定して終了 (Set Defaults and Exit)	工場出荷時の設定値に戻します。すべてのパスワード設 定も消えます
	変更を保存しないで終了 (Ignore Changes and Exit)	変更した設定値を破棄し、コンピュータ セットアップ ユーティリティを終了します
	変更を保存して終了 (Save Changes and Exit)	変更した設定値を保存し、コンピュータ セットアップ ユーティリティを終了します

コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

コンピュータ セットアップ ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
ストレージ (Storage)	デバイス構成 (Device Configuration)	<p>取り付けられているすべてのストレージ デバイスを表示します。どれかデバイスを選択すると、そのデバイスに関する詳細情報およびオプションが表示されます。デバイスを選択すると次のような項目が表示されます</p> <p>ディスクタイプ (Diskette Type) (低速ディスク ドライブのみ) ディスク ドライブで使用可能な最大容量のメディアのタイプを示します <u>レガシー ディスク ドライブ</u> (Legacy Diskette Drives) オプションには、3.5インチ1.44MB、5.25インチ1.2MB、および「ドライブなし」(Not Installed) があります</p> <p>ドライブ エミュレーション (Drive Emulation) 特定のストレージ デバイスのドライブ エミュレーションタイプを選択します(たとえば、Zip ドライブは、ディスク エミュレーションを選択することで起動可能になります)</p> <p>ATAPI Zip ドライブ なし (None) (その他の各種ドライブとして (ATAPI Zip drive) 処理)</p> <p>ディスク (Diskette) (ディスク ドライブとして処理)</p> <p>ディスク (Disk) (ハードディスク ドライブとして処理)</p> <p><u>IDE デバイス</u></p> <p>ドライブのタイプ エミュレーション オプション</p> <p>ハードディスク (Hard Disk) なし</p> <p>ディスク (Diskette) なし</p> <p>CD-ROM なし</p> <p>LS-120 なし</p>

コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

コンピュータ セットアップ ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
ストレージ (Storage) (続き)	デバイス構成 (Device Configuration) (続き)	<p>転送モード (Transfer Mode) (IDEデバイスのみ) アクティブなデータ転送モードを指定します。オプションには (デバイスの機能により)、PIO 0、Max PIO、Enhanced DMA、Ultra DMA 0、および Max UDMA があります</p> <p>変換モード (Translation Mode) (IDE ディスクのみ) デバイスで使用する変換モードを選択します。これによりBIOSは、他のシステム上のパーティション分割およびフォーマットされたディスクにアクセスできます。これは、旧バージョンのUNIX (SCO UNIXバージョン3.2など) のユーザにとって必要な場合があります。オプションには、ビットシフト (Bit-Shift)、LBA 支援 (LBA Assisted)、ユーザ (User)、および「オフ」(None) があります</p> <p> 注意：通常は、BIOSによって自動的に選択された変換モードは変更しないでください。選択された変換モードが、ディスクをパーティション分割およびフォーマットしたときにアクティブであった変換モードと互換性がないと、ディスク上のデータにアクセスできなくなります</p> <p>変換パラメータ (Translation Parameter) (IDEディスクのみ) パラメータ (論理シリンダ (Logical Cylinders)、ヘッド (Heads)、およびトラック当たりのセクタ数 (Sectors Per Track)) を指定します。BIOSはこれを使用して (オペレーティングシステムやアプリケーションからの) ディスクI/O要求を、ハードディスクドライブで受け入れ可能な様式に変換します。論理シリンダは1024を超えることはできません。ヘッド数は256を超えることはできません。トラック当たりのセクタ数は63を超えることはできません。これらのフィールドは、ドライブの変換モードが「ユーザ」に設定されているときにのみ、表示および変更できます</p> <p>マルチセクタ転送 (Multisector Transfers) (IDE ATAデバイスのみ) マルチセクタのPIO操作ごとに転送されるセクタ数を指定します。オプションには (デバイスの機能により)、無効 (Disabled)、8、および16があります</p>

コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

コンピュータ セットアップ ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
ストレージ (Storage) (続き)	デバイス構成 (Device Configuration) (続き)	<p>低騒音ドライブ (Quiet Drive) (一部のドライブでのみ使用可能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大性能 (Performance) ドライブは、最大性能で動作します</li> <li>低騒音 (Quiet) 動作中のドライブの騒音を低減します。低騒音に設定するとドライブは最大性能では動作しなくなります</li> </ul> <p> ドライブが低騒音モードをサポートしていない場合、低騒音ドライブの項目は表示されません</p>
	ストレージ オプション (Storage Options)	<p>リムーバブル メディア起動 (Removable Media Boot) リムーバブル メディアからシステムを起動する機能の有効 (Enable) /無効 (Disable) を設定します</p> <hr/> <p>リムーバブル メディア書き込み (Removable Media Write) リムーバブル メディアにデータを書き込む機能の有効 (Enable) /無効 (Disable) を設定します</p> <p> この機能は、レガシー ディスケット、IDE LS-120スーパーディスク、およびIDE PDオプティカルドライブにのみ適用されます</p> <p> リムーバブル メディア起動の変更を行った後で、コンピュータは再起動しますが、手動でコンピュータの電源を切ってから電源を入れてください</p> <hr/> <p>プライマリIDEコントローラ (Primary IDE Controller) プライマリIDEコントローラを有効 (Enable) /無効 (Disable) に設定します</p> <hr/> <p>セカンダリIDEコントローラ (Secondary IDE Controller) セカンダリIDEコントローラを有効 (Enable) /無効 (Disable) に設定します</p> <hr/> <p>BIOS IDE DMA転送 (BIOS IDE DMA Transfers) BIOS IDE DMA転送を有効 (Enable) /無効 (Disable) に設定します</p>

コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

コンピュータ セットアップ ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
ストレージ (Storage) (続き)	ストレージ オプション (Storage Options) (続き)	<p>ディスク MBR 検証 (Diskette MBR Validation)</p> <p>ディスクのマスタ ブート レコード (MBR) の厳密な検証を有効 (Enable) / 無効 (Disable) に設定します</p> <p> ディスケット MBR 検証を有効にすると、ディスクを使用できないことがあります。適正であることが分かっている起動可能ディスクのイメージが起動しない場合、この項目を無効にします</p>
		<p>IDE 先読み (IDE Read Prefetching)</p> <p>IDE 先読みを有効 (Enable) / 無効 (Disable) に設定します</p>
	IDE DPS セルフテスト (IDE DPS Self-Test)	<p>DPS (Drive Protection System) セルフテスト機能をもつ IDE ハードディスク ドライブのセルフテストの実行</p> <p> この項目は、1台以上の IDE DPS セルフテスト機能を持つハードディスク ドライブがシステムに接続されている場合にのみ表示されます</p>
	起動順序 (Boot Order)	<p>接続された周辺装置 (ディスク ドライブ、ハードディスク ドライブ、オプティカル ドライブ、またはネットワーク インタフェース カードなど) に起動可能なオペレーティング システムのイメージがあるかどうかをチェックする順序を指定します。リスト上の各デバイスは、起動可能オペレーティング システムのソースとして個別にチェック対象から除外したり、チェック対象に含めたりできます</p> <p> MS-DOS のドライブ名の割り当ては、MS-DOS 以外のオペレーティング システムが起動された後は、適用されない場合があります</p>

コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

## コンピュータ セットアップ ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
セキュリティ (Security)	セットアップ パスワード (Setup Password)	<p>セットアップ パスワード (アドミニストレータ) を設定</p> <p> セットアップ パスワードを設定すると、コンピュータ セットアップ ユーティリティの設定を変更したり、ROMをフラッシュしたり、Windows環境で特定のプラグ アンド プレイ設定を変更したりする場合にセットアップ パスワードが必要になります。また、コンパックの一部のリモート セキュリティ ツールを使用する場合にもこのパスワードの設定が必要です</p> <p>詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください</p>
	電源投入時パスワード (Power-On Password)	<p>電源投入時パスワードの設定。詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください</p>
	パスワード オプション (Password Options) (電源投入時パスワードが設定されている場合にのみ表示 されます)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク サーバ モード (Network Server Mode) の有効 (Enable) / 無効 (Disable) の設定</li> <li> 電源投入時パスワードを設定している時のみこれらの設定が表示されます</li> <li>ウォーム ブート ([Ctrl]+[Alt]+[Delete]) にパスワードが必要かどうかの指定</li> <li> この項目は、ネットワーク サーバ モードが無効のときのみ使用できます</li> </ul> <p>詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください。</p>
	デバイス セキュリティ (Device Security)	<p>シリアル ポート (Serial Port) AとB、パラレル ポート (Parallel Port)、USBポート (USB Port)、システムのオーディオ セキュリティ (Audio Security)、モデルによってはネットワーク コントローラ (Network Controller)、およびSCSIコントローラ (SCSI Controller) のデバイス有効 (Enable) / デバイス無効 (Disable) の設定</p>
	ネットワーク サービス ブー ト (Network Service Boot)	<p>ネットワーク サーバにインストールされたオペレーティング システムからコンピュータを起動する機能の有効 (Enable) / 無効 (Disable) の設定 (NICモデルのみで使用でき、ネットワーク コントローラがPCバス上に存在するか、システム ボードに組み込まれている必要があります)</p>

コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

コンピュータ セットアップ ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
セキュリティ (Security) (続き)	システム ID (System IDs)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アセット タグ (16バイトのID) の入力 (Asset Tag) およびオーナーシップ タグ (POST実行中に表示される80バイトのID) の入力 (Ownership Tag)</li> </ul> <p>詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本体シリアル番号 (Chassis Serial Number) または UUID (Universal Unique Identifier) 入力 (UUID) 現在の番号が無効の場合に設定 (通常これらの識別 (ID) 番号は工場出荷時に設定され、そのシステムを特定するために使用されます)</li> <li>キーボード (Keyboard Locate) の設定 英語用やドイツ語用などをシステムIDエントリに対して設定します</li> </ul>
	マスタ ブート レコード セキュリティ (Master Boot Record Security)	<p>マスタ ブート レコード (MBR) セキュリティを有効 (Enable) /無効 (Disable) に設定します</p> <p>有効に設定すると、BIOSは、現在の起動可能ディスクの MBRへの書き込み要求をすべて拒否します。コンピュータの電源を入れるか再起動するたびに、BIOSは現在の起動可能ディスクの MBRと前回保存した MBRとを比較します。変更が検出された場合、現在の起動可能ディスクの MBRを保存するか、前回保存した MBRを復元するか、または MBRセキュリティを無効にすることができます。セットアップ パスワードが設定されている場合は、セットアップ パスワードを入力する必要があります</p> <p> 現在の起動可能ディスクのフォーマットやパーティションを意図的に変更する際は、MBRセキュリティを無効に設定します。一部のディスク ユーティリティ (FDISKやFORMATなど) は MBRを更新しようとします。MBRセキュリティが有効に設定されたまま BIOSによってディスク アクセスの処理が行われると、MBRへの書き込み要求は拒否され、ユーティリティはエラーを表示します。また MBRセキュリティが有効に設定されたままオペレーティング システムによってディスク アクセスの処理が行われると、次の再起動時に BIOSによって MBRの変更が検出され、MBRセキュリティの警告メッセージが表示されます</p>

コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

コンピュータ セットアップ ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
カスタム * (Advanced) * 上級ユーザのみ設定を行ってください。	電源投入時オプション (Power-On Options)	次の項目を設定します <ul style="list-style-type: none"> <li>POSTモード (POST Mode) の設定 : クイック ブート (QuickBoot)、フル ブート (FullBoot)、または1~30日毎にフルブート (FullBoot Every 1-30 Days)</li> <li>POSTメッセージ (POST Messages) の有効 (Enable) /無効 (Disable)</li> <li>安全POST (Safe POST) の有効 (Enable) /無効 (Disable)                          この機能を有効に設定すると、起動中にROMにアドインカードを監視させることができます。アドインカードが正常に動作しない、あるいは初期化されない場合、すべてのカードは次回の起動時のPOST実行中に無視されます (この機能は一部のモデルでのみサポートされます)</li> <li>[F10]プロンプト (F10 Prompt) の有効 (Enable) /無効 (Disable)                          この機能を有効に設定すると、POST 実行中に [F10=Setup]と表示されます。この機能を無効に設定してテキストが非表示になっても、[F10]キーを押すと[Setup]画面が表示されます</li> <li>[F12]プロンプト (F12 Prompt) の有効 (Enable) /無効 (Disable)                          この機能を有効に設定すると、POST実行中に [F12=Network Service Boot]と表示されます。この機能を無効に設定してテキストが非表示になっても、[F12]キーを押すとネットワークからのブートがシステムに強制されます</li> </ul>

コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

コンピュータ セットアップ ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き) *上級ユーザのみ設定を行ってください。	電源投入時オプション (Power-On Options) (続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>                             オプションROMプロンプト (Option ROM Prompt) の有効 (Enable) /無効 (Disable)                              この機能を有効に設定すると、オプションROMをロードする前に画面にメッセージが表示されます (この機能は一部のモデルでのみサポートされます)                         </li> <li>                             リモート ウェイクアップ ブート ソース (Remote Wakeup Boot Source) のリモート サーバ (Remote Server) /ローカル ハードディスク ドライブ (Local Hard Drive)                         </li> <li>                             電源の切断後 (After Power Loss) のオン (On) /オフ (Off)                              電源切断後、コンピュータ本体の電源スイッチではなく、スイッチ付き電源タップのスイッチなどを使用してコンピュータの電源を入れたい場合は、このオプションをOnに設定します   電源タップのスイッチを使ってコンピュータの電源を切る場合は、サスペンド/スリープ機能またはリモート マネジメント機能を使用できません                         </li> <li>                             UUID の有効 (Enable) /無効 (Disable)                              コンパックの各コンピュータにはシリアル番号、製造日時などの固有のIDがあります。この機能を有効に設定すると、ドライバ、ネットワークなどのソフトウェアでコンピュータのIDを読み取ることができるようになります                         </li> <li>                             POST遅延時間 (秒単位) (POST Delay (in seconds)) の設定                              この機能を有効に設定すると、ユーザが指定した遅延時間がPOSTプロセスに追加されます。この遅延時間は、POSTが完了した時点でブートの準備ができていないほどPCIカード上のハードディスクの回転が遅い場合に必要となります                         </li> </ul>

コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

コンピュータ セットアップ ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き) *上級ユーザのみ設定を行ってください。	電源投入時オプション (Power-On Options) (続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>I/O APICモード (I/O APIC Mode) の有効 (Enable) / 無効 (Disable) この機能を有効に設定すると、Microsoft Windowsオペレーティング システムの動作が最適化されます。Microsoft以外の一部のオペレーティング システムを正常に動作させるためには、この機能を無効に設定する必要があります</li> <li>メモリの先頭のACPIおよびUSBバッファ (ACPI and USB Buffer @ Top of Memory) の有効 (Enable) / 無効 (Disable) この機能を有効に設定すると、ACPIおよびUSBメモリ バッファがメモリの先頭に配置されます。この機能の利点は、1MB未満の一定量のメモリがオプションROMIによって解放されて使用できる点です。不利な点は、ACPIおよびUSBバッファがメモリの先頭にありシステムのRAMが64MB以下の場合、一般的なメモリ マネージャであるHIMEM.SYSが正常に動作しない点です</li> </ul>
	オンボード デバイス (Onboard Devices)	オンボード システム デバイス (ディスクレット コントローラ (Diskette Controller)、シリアル ポート (Serial Port)、パラレル ポート (Parallel Port)) 等のリソース および無効 (Disable) の設定
	PCI デバイス (PCI Devices)	<ul style="list-style-type: none"> <li>インストールされている PCI デバイスと IRQ の設定の表示</li> <li>各デバイスの IRQ 設定を変更したり、デバイスを無効 (Disable) に設定 これらの設定は、ACPI対応のオペレーティング システムには対応していません</li> </ul>

コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

コンピュータ セットアップ ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き) * 上級ユーザのみ設定を行ってください。	バス オプション (Bus Options)	一部のモデルでは、次の項目の有効 (Enable) / 無効 (Disable) を設定します <ul style="list-style-type: none"> <li>PCIバス マスタ (PCI Bus Mastering) PCIデバイスがPCIバスの制御を実行</li> <li>PCI VGAパレット スヌーピング (PCI VGA Palette Snooping) PCIコンフィギュレーション スペースにVGAパレット スヌーピング ビットを設定 2つ以上のグラフィックス コントローラがインストールされている場合に必要</li> <li>PCI SERR#生成 (PCI SERR# Generation)</li> </ul>
	デバイス オプション (Device Options)	次の項目を設定します <ul style="list-style-type: none"> <li>プリンタ モード (Printer Mode) の双方向 (Bi-directional)、EPP+ECP (EPP &amp; ECP)、出力専用 (Output Only)</li> <li>電源投入時Num Lock状態 (Num Lock state at Power-On) のオン (On) / オフ (Off)</li> <li>電源管理イベント (PME) PMEウェイクアップ イベント (Wakeup Events) の有効 (Enable) / 無効 (Disable)</li> <li>プロセッサ キャッシュ (Processor Cache) の有効 (Enable) / 無効 (Disable)</li> <li>ACPI S3のサポート (ACPI S3 Support) の有効 (Enable) / 無効 (Disable) S3は、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) のスリープ状態であり、一部のアドインハードウェア オプションではサポートされない場合があります。この機能は一部のモデルでのみサポートされます</li> <li>ACPI S3ビデオ再POST (ACPI S3 Video REPOST) の有効 (Enable) / 無効 (Disable) S3スリープ状態からの復帰時にビデオ オプションROMを元に戻します</li> </ul>

コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

## コンピュータ セットアップ ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き) *上級ユーザのみ設定を行ってください。	デバイス オプション (Device Options) (続き)	次の項目を設定します <ul style="list-style-type: none"> <li>ACPI S3ハードディスクのリセット (ACPI S3 Hard Disk Reset) の有効 (Enable) /無効 (Disable) S3スリープ状態からの復帰時にハードディスク ドライブをリセットします</li> <li>ACPI S3 PS2マウス ウェーク アップ (ACPI S3 PS2 Mouse Wake Up) の有効 (Enable) /無効 (Disable) マウスを使用してS3スリープ状態から復帰できるように設定します</li> <li>内蔵ビデオの有効 (Enable) /無効 (Disable)</li> <li>AGPビデオ フレーム バッファ サイズ (AGP Aperture size) (オプションはプラットフォームによって異なります) AGPビデオ フレーム バッファ サイズ ウィンドウのサイズを変更します</li> <li>フレーム バッファ サイズ (Frame Buffer Size)。自動 (Auto) (デフォルト)、8MB (最小) (8MB (min))、16MB、または32MB (最大) (32MB (max)) から選択します。自動を選択すると、取り付けられているメモリに応じたフレーム バッファ サイズが選択されます。128MB以下のメモリが取り付けられている場合は、フレーム バッファ サイズは16MBになります。128MBより大きいメモリが取り付けられている場合は、フレーム バッファ サイズは32MB (最大サイズ) になります。フレーム バッファ サイズが大きくなると、OSで利用可能なシステム メモリの量は減ることに注意してください。外部AGPが取り付けられている場合、または内蔵ビデオが無効になっている (外付けPCIビデオ カードが取り付けられているなど) 場合は、フレーム バッファ は使用されません。上記の場合、[F10]で表示されるフレーム バッファ サイズは適用されませんが、オプションは表示されたままになります</li> <li>モニタ トラッキング (Monitor Tracking) の有効 (Enable) /無効 (Disable) モニタのアセット情報をROMに保存</li> <li>S2Kの停止/切り離し (S2K Halt Disconnect) の有効 (Enable) /無効 (Disable)</li> </ul>

コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。